

始めてみませんか? 「書き写し学習」卓上四季ノート

「卓上四季ノート」とは? 北海道新聞の1面に掲載されているコラム「卓上四季」を書き写すノートです。分からない言葉や漢字、天気や気になるニュースも記入できます



- 卓上四季ノートの効果
 - ☆認知症予防のトレーニングに
 - ☆漢字や言葉を思い出せます
 - ☆毎日の社会情勢や出来事がわかる
 - ☆文章を読み取る能力が身に付く
- 1冊162円(税込) ※1冊で約1ヶ月使用できます。
ご希望の方はお気軽に販売所までお電話ください。

七十五日間(土曜授業含む)の1学期、大きな事故なく過ごすことができました。見守り活動いただきました地域・保護者の皆様はこの場をお借りして心から感謝申し上げます。また、運動会、遠足等の外の行事は天候に恵まれ、順調に終えることができました。嬉しいかぎりです。しかしながら、この6、7月は、蝦夷梅雨という言葉では表現しきれないほどの長雨で、すでに道内各地で被害があり、十勝でも秋の収穫への影響が懸念されています。さらに西日本豪雨では、尊い命が数多く失われました。心よりご冥福をお祈りいたします。

ここ最近、未曾有の災害が立て続けに起きています。めったにないことがしょっちゅう起きている。頭が混乱しそうです。前の災害が復旧する前に次の災害が起きるので、ただただ世間から忘れ去られてしまう人がいない



「備えあれば」

新得町立屈足南小学校 校長 高 充慶



ことを願うばかりです。北海道百五十周年。十勝の生活も開拓から今日まで、苦難の連続だったと史実は語っています。「しんとくふるさと歌留多」には、五年間続いたトノサマバッタ大量発生による被害も描かれています。駒ヶ岳噴火による津波、十勝沖地震、十勝岳噴火、昨今の台風など多くの災害を乗り越えてきました。

サツカーワールドカップで日本人がゴミを拾う姿、災害時における落ち着いた行動が取り沙汰され、世界の賞賛を浴びています。あるテレビでは日本は災害が多い国なので、お互いに助け合う「相互扶助」の精神が昔から培われていると解説していました。

最近の災害も今後の日本人の精神を育み、「相互扶助」を強固にするものなのかもしれません。つまり、災害には、水や食料なども大切な備えです。地域みんなが一緒に過ごす時間も大切な備えというわけです。学校はいよいよ夏休み。お祭りシーズンも到来です。ちよっと外に出て、誰かと一緒に過ごしてみましようよ。

本

無送料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作! 欲しい本をお取り寄せ!

せ! 気軽にお問い合わせください。通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。※当店取り置きとなりません。宅配サービスは致しません。

いちいち屈足駐在所



鈴木進司 巡査部長 No.25

「交通事故防止」

先月と今月、新得署管内清水町で事故が発生しています。先月、昼頃、清水町国道38号線で発生した事故の状況は自転車と乗用車の接触事故。自転車運転者をしていた女性が頭部を地面に打ち付け意識不明の重体。数日後に亡くなりました。

今月、御影で夕方時閑散道路の交差点でトラックと乗用車の死亡事故。

事故の状況は、トラックが一時停止を無視して交差点を進行したところ右側からきた乗用車と出会い頭衝突事故です。

これらの事故を防ぐには車両走行中に自転車利用者を見かけたなら、その動向に注意し、交差点では標識に従い、必ず停止する。また停止標識がなくても徐行し車両に注意する。

そして自転車利用の際には、安全確認を実施し事故防止に注意して下さい。

屈足地区では死亡事故ゼロが現在も更新されています。重体事故や死亡事故を起こさないため、安全運転に努めて下さい。



道新七月号ポケットブックの御案内です。



▼ポケットブック7月号「自分でできる 肩こり・腰痛ケア」日本人の健康に関する悩みの第1・2位にあげられる「肩こり」「腰痛」。日常的になり過ぎていて、改善を諦めている人も少なくありません。今や性別、年齢に関係なく「国民病」ともいえる肩こりと腰痛。その原因は生活習慣とも関連しています。

今号では痛みが起ころる仕組みから自分でできる改善方法までを詳しく紹介し、配布済み。

ポケットブック次号予告「サカナとついでまごわやさしい? 献立」

ねっとわーく屈足

ねっとわーく屈足電子版
ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。
ツイッターも屈足の話一杯毎日更新!

じじ-akira1942

連続小説

電池のきれた兜虫

赤池 武臣

いつも自分の殻にとじこもっていて、よほどのことがない限り、典子が呼んでも、声を出して返事をしたことはなかった。

いつも無言で時間に関係なく、玩具との対話の中に没していた。

小学校にあがってからもその態度は変わらず、ほとんど友達との交わりをもつこともなかった。

そのことで、典子は再々、学校に呼び出されては担任の先生に注意や小言を聞かされた。が、もはやどうしよう出来る状態ではなかった。そしてその責任は、典子が一番分かっていることでもあった。

しかし、だからといって黙っている訳にもいかず、学校で言われたことを、それとなく武彦に言っかけてきかせても、ただ、うんうんとうなずきながら、首をたてに振るだけで、ほとんど典子を無視した態度に、最後は自分から口をつぐんでしまう典子だった。

このままではいけない、何かきっかけを見つけ、弾みを武彦にもたせなければ、武彦だけではなく、自分自身も駄目になってしまう。

そんな恐怖に似た思いが、ここ一年余り、いつも頭の隅にこびりついていて、夜の勤めに出て、店の中が酔客で狂乱じみてくればくる程、典子の気持はふさぎこんでくるのだった。

そんな思いに比例するように、典子の飲む酒の量も多くなってきた。

いつも二日酔いが続き、水だけを浴びるように飲み、目にみえて衰弱してくるのを、はつきりと自覚するようになっていた。

店に電話を掛け終わり、今日はゆっくり休めると思いながら、典子は布団に腹這いになって煙草に火を点けた。

その時だった。「ママ、兜虫の電池が切れたよ。代わりの電池、入れ替えて。ママツ・」すつとんきような声をはり上げ、武彦が叫んだ。

何カ月、いや、何年振りかで聞く「ママ」という言葉だった。

普段武彦は、何を頼むにしても「ねえ」か「これ」で間に合わせ、それで大体の意味は通じるし、事足りていた。

つつく